令和　3　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0473100469		
法人名	特定非営利活動法人よつば荘		
事業所名	グループホームよつば荘		
所在地	宮城県遠田郡美里町北浦字船入2-61		
自己評価作成日	令和 3 年 9 月 21 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4－2－8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	令和 3 年 11 月 18 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

9人制のグループホームであることで見通しが良く、毎日必ず職員が利用者一人ひとりと会話をし、身体の状況や、困り事頼まれごとなどを聞き出し、先延ばししないように早期解決に努めている。ゆったりとした空間の中で利用者が安心しながら心の内を職員に話してくれているのはコミュニケーションが行き届いているという証拠だと感じている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設17年目のホームは、JR小牛田駅から西へ徒歩5分の県道19号線に面し、外壁のシンボルマークの四つ葉のクローバーが目を引く。近隣に商店街があり、職員と一緒に食材やおやつ等の買物に出掛ける楽しみがある。運営推進会議の一員に近隣住民代表の方がおり、ホームへの理解があり協力的である。目標達成計画に上げた栄養管理について、町の栄養士に栄養指導を受け、おやつに豆乳を出してはというアドバイスを受けた。職員はケア理念である「ゆったり・ゆかいに・ゆたかに」を念頭に、一人ひとりの生活リズムや思いを大切に、ゆっくり急がずに見守り、個々に寄り添ったケアに努めている。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、やりがいと責任を持って働けている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名　グループホームよつば荘　)「ユニット名　」

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり・ゆかいに・ゆたかに」を今回も理念とし、利用者個人が考える時間を大切にしながら暮らしていけるよう支援している。	業務理念とケア理念がある。年度始め全職員で見直している。9月の管理者交代時にも、再度確認し継続とした。起床時間や食事のペース等その人に合わせた「ゆったり」したケアを心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	まだ以前のような催しはできていないが、挨拶を兼ねてお歳暮やお中元を手渡しし、交流している。	開設以来17年間、中元歳暮時には、よつば新聞と菓子等を届ける等、近隣住民との交流は深い。コロナ禍で中断しているスマイルカフェに替え、子供を含めたふれ合い交流会を開催し喜ばれた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の資料の中で報告している。レク活動も認知症の方ができるゲーム等、考えて実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催を書面を通して報告しているので、地域からの直接的な意見はなかったが、職員間での意見交換は行っている。	偶数月に年6回開催している。コロナ禍の為、メンバーに職員会議の議事録を手渡し、挨拶を交わしている。意見や感想を聞くまでには至っていないので、今後その手段を工夫してもらいたい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護報酬の相談など、事業に関わる相談をしている。また、市町村の栄養士などから食事についてのアドバイスも受けた。	県主催の地域密着型サービス事業所等集団指導を受けた。高齢者の運動機能の理解と支援の基礎研修に参加した。町の担当者に報酬改定や栄養管理等相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	検討委員会の定例開催を行い、拘束の実例を挙げて職員間で話し合っている。	3ヵ月毎に身体拘束適正化検討委員会を開催している。動画を視聴し、スピーチロックと心理的虐待の具体的行為や身体拘束をしない工夫について内部研修をした。入院中拘束されていた方の実例を検討し、ホームに戻り現在は落ち着いている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束と併せて研修会を実施している。申し送りで言動に気を付けるよう話したりと管理者が注意を払っている。	着替えや入浴時新たな傷や内出血等が無いか確認し、ミーテングや連絡ノートで職員間で共有している。新人研修で先輩の行う排泄介助や入浴介助を見せる事で、不適切ケアにならないように工夫している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年の研修会は行わなかったが、機会があれば学びたいと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行っている。料金改定の時は文書にて説明、報告している。質問があれば相談に乗っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族から意見、要望を引き出すよう努めている。	利用料持参の際、意見や要望等を聞いている。「写真では何時も同じ服を着ている」の意見に、本人が好んでいることと洗濯を小まめにしていることを伝えた。面会はワクチン接種を条件に、職員控室でしている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングで管理者が提案したことについて、スタッフからも意見を求めるようにしている。皆で決めながら運営していくようにしている。	職員の提案で、リネン交換は部屋の担当者が行っていたが、週を決めて一斉に交換することで、担当者の負担軽減を図った。各種研修や資格取得の為の経費助成や勤務調整を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年職員評価を行い、能力の上がった職員、研修を受け基準を満たした職員には昇給する仕組みを設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	シフト調整をし、研修に通えるようにしている。また、研修費は経費として計上している。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍により、交流する機会は設けていないが、研修会では他施設の良さなどを認識し、自施設で活かしていくように努めている。	今年度交流はないが美里町のグループホーム協議会に加入している。県の集団指導で婦人部の事を知り、交流を深める意味もあるので、理事長と管理者が婦人部入会を検討している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約の際、本人の意向を伺い、そのあとに家族からの意向・自宅での様子等、認知症ケアとして重要なことを聞き出すようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約の際、困りごとも含め聞き出すようにしている。サービス利用中にも何かあれば連絡を取り合うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自宅での生活から離れた時に必要なニーズを見極め、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることはお願いし、感謝の気持ちを伝えるように努めている。必要な存在ということを感じて頂き、支え合えるような言葉がけをしている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の社会で生きていく大変さを伝え、双方の立場を尊重するような言葉がけをしている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブや散歩で懐かしい場所を通るようにしている。利用者の気持ちに寄り添い回想法を交えながら話しをし、楽しい気持ちになるように努めている。	昔の職場や遊んだりした懐かしい場所を選んでドライブや散歩をしている。図書館に本を借りに行って、知り合いの職員に会った方もいる。先生をしていた入居者が、団地の集会に招待されていくこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気心がある利用者同士は一緒に活動し、馴染めない利用者には職員が間にはいったり、個人的に話しを聞くようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前利用していた方の家族に民謡教室のお誘いをしている。関係がなくなっても引き続き足を運んでもらえるような言葉がけをしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室にて、意向を伺ったり、不安を聞いたりしている。希望に沿うように支援している。	入居者の希望もあり、９月から感染対策を講じ、月２回の民謡教室を再開した。趣味の書道を継続したり、図書館に本を借りに行く方もいる。把握困難な方はその表情や動作、仕草で意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	使い慣れたタンス、仏壇を使っている利用者もいる。基本情報を参考にし、職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状態を観察し、現状にあったケアが出来るように努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室の担当者が情報収集し、職員間で会議をした後、ケアマネジャーがケアプランを作成している。変更があれば計画書に取り入れている。	職員会議にはケアマネも参加し介護計画を作成している。ケアマネは毎週ケース記録や連絡ノートを確認し反映させている。歩行不安定な方には下肢筋力強化に向けたストレッチやラジオ体操を組み入れた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	連絡ノートや個別記録に記載し、朝の申し送りと夜勤者への申し送りで情報を共有している。利用者の状態に変化があった時は介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の状況に応じて、本人の意思を尊重しながら対応できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	残存能力を活かし、出来ることを奪わないように支援している。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	看護師が付き添い受診し、利用者の状態を伝え適切な医療を受けている。コロナウイルスワクチン接種は協力医療機関で摂取した。	1名を除き、協力医を受診している。専門病院を含め通院は、全て看護職員が付き添っている。受診結果を家族に報告している。希望者は訪問歯科を利用し治療を受けている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者に変化があれば、看護師に報告し指示を仰ぐようにしている。職員にもその旨を報告し、共有しながら観察している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリーで情報交換の体制を整えている。急変がある時は時間外でも受診している。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針をもって家族に話すことはあるが、希望する利用者はいない。	看取りの指針は成文化され、入居時に説明をしている。現在は、重度化して協力医療機関に入院した後、他施設等に行く方が多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変の対応は常駐している看護師に意見を仰ぐようにしている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定を含めた避難訓練を年2回実施している。水害対策については美里町の研修会に参加し、水害時の避難場所や施設周りの浸水区域など確認している。	コロナ禍のため、地域住民の参加は要請しなかった。夜間想定を含み年2回避難訓練を実施している。車椅子への移乗に時間が過かることから、ベットまたはシーツごと運んだ方が早いことの成果を得た。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入る際はノックし、確認してから入室している。下着や衣類の確認をするときも本人と話しながら行ったり、断りをしてからタンスの中の確認をしている。	名前の呼び方は姓名に「さん」付けである。本人が望む「先生」と呼ぶ方もいる。トイレは肩をトントンして目線を合わせ小声で誘導する。入浴時は目線に注意すると共に、タオルを掛ける等プライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症のためにうまく表現できない利用者にも、基本情報から昔の性格や生活の様子を読み取り、自分の気持ちを話しやすくしたり、行動しやすくなるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行事など、決まっている予定の日は本人の意向を確認してから参加をしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪・毛染め・顔そりは定期的に行っている。近所の方や知り合いから着なくなった服を譲り受け、バザーのように好みの服を差し上げ、着て頂いている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	手作り餃子では利用者も一緒に作り、イベントになっている。職員が側について盛り付けもして頂き、ともに食事をしている。	献立や調理は職員が作っており、入居者が手伝って盛り付けした料理を職員も同じ食卓を囲んでいる。コロナ禍で落ち込んでいた際、サプライズで出前の寿司を取り喜ばれた。忘年会の鍋パーティーも好評であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日記録して申し送りをしている。食事量が少ない利用者には栄養補助飲料を摂取してもらい、バランスよく取り入れるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、就寝時、声がけや一部介助で対応している。自分で磨いていない利用者には毎食後洗面所へ誘導し、ケアをしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハビリパンツを着用し、自立又は声がけをしてトイレを利用している。認知症の進行により1時間に何度もトイレを使う利用者には居室のPトイレを使用してもらい、排泄物の確認をしている。	殆どの方が自立している。入居時介護度5でオムツの方が排泄チェック表を活用した声掛け、誘導で介護度1になり、現在はリハパンになっている。夜間はポータブル使用が5名で、夜間巡回時に確認している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師の助言・介護職員間でミーティングし、自然排便を促せるように運動や食事量・水分量をこまめにチェックしている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴日が週4日あり、週2回の入浴支援をしている。拒否があればまた違う日に入浴できるようにし、清潔の保持が保たれるようにしている。	週2回午前中の入浴を基本にしている。拒否する方の要因が恐怖にあることを知り対処した。シャンプーやボディソープは好みの物を使用している。菖蒲湯や柚子湯（蜜柑の皮を代用）で季節を感じながら入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活パターンを把握し、それに沿って支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師指導のもと、職員が交代で毎日の内服薬を確認、配薬している。処方の都度、薬の説明に目を通し、利用者の疾患について理解するように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員と一緒に玄関掃除、花の水やりなど出来ることをお願いし、役割を持っていただいている。行事に沿ってイベントを開催し楽しみを持っていただいている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で、行ける場所は限られていたが、コスモスの花を見に行ったり、機関車が走る時はドライブしながら線路近くで見学した。家族にもその旨、新聞に掲載し報告している。	コロナ禍ではあったが対策をしっかりし、冬の江合川の白鳥、春は加護坊山の桜、秋には松山のコスモス等、目と肌で季節を感じる外出をしている。近くのスーパーへの食材の買い出しには、車いすの方も散歩を兼ねて同行する。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自施設では利用者の状態に応じて本人管理か施設管理かに分けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は必要な時貸し出ししている。郵便物のポストへの投函も行っている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、季節を感じてもらえる空間を作っている。外出した時の写真を貼り、思い出話で話せるきっかけを作るようにしている。	ホールにはソファやテレビ、カラオケがある。季節に合わせ、紫陽花の貼り絵を一緒に制作して飾った。現在はモールを貼りつけたサンタクロースと雪だるまがあり、冬の訪れを感じさせている。外出や誕生会、ふれあい交流会等の写真が話題の材料となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファーを置き、くつろげる場所を確保している。皆さんで使いましょうねと声がけをしている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	新しく買うのではなく、使っていたものを持ってきてもらうようにしている。必ず記名し、自分の物だと理解することで安心して頂くようにしている。	エアコンとタンスが備えてある。仏壇やテレビ、サイドテーブル、足踏台、家族写真等を持参し、思い思いの部屋になっている。乾燥対策は濡れタオルと廊下でファンヒーターを回し、ドアを開ける等工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	喫茶コーナーを設置し、飲みたいお茶は自分で居れてもらうようにしている。ポットの使い方が分からなくなる利用者には付き添いながら自分で淹れてもらうようにしている。		